

## 総合振興計画等の進捗状況に係る議会報告について

令和 5 年度 9 月浜田市議会定例会議において、令和 4 年度の進捗状況の報告を行い、下記のとおりご意見をいただきました。

## 【意見の趣旨】(抜粋)

No.	ご意見の趣旨	浜田市の答弁
まちづくり大綱：Ⅰ 活力のある産業を育て雇用をつくるまち【産業経済部門】		
1	<p>【施策大綱 1】 水産業の振興</p> <p>【主要施策 3】 浜田漁港周辺エリアの活性化</p> <p>代表的な目標 5「高度衛生管理型荷さばき所整備」は、令和 4 年度に施設が完成したことで目標の整備率 100%に対して、達成率が 100%となり既に目標が達成されたが、グラフの表示によると令和 5 年度以降の整備率も 100%のままで、令和 7 年度まで達成済の目標が続いている。</p> <p>目標が達成したのであれば、主要施策として取組を進める「浜田漁港周辺エリアの活性化」に対する新たな目標を掲げるのが良いのではないか。</p>	<p>この目標については、完了したこととし、令和 5 年度以降においては、主要施策に掲げる「浜田漁港周辺エリアの活性化」への新たな取組について「主な取組と成果」を記載する欄にしっかりと書き込んでいく。</p>
まちづくり大綱：Ⅲ 夢をもち郷土を愛する人を育むまち【教育文化部門】		
2	<p>【施策大綱 1】 学校教育の充実</p> <p>【主要施策 1】 生きる力の育成～【主要施策 2】 一人一人を大切にしている教育の推進</p> <p>主要施策 1「生きる力の育成」から主要施策 2「一人一人を大切にしている教育の推進」までに設定されている代表的な目標 4 項目のすべてで B 評価となっている。A 評価にするためのイメージを何かお持ちか。</p> <p>内面的な部分ではあるが、子どもたちのために欲を出せないか。</p> <p>個人的なイメージでは、浜田親子共育応援プログラム（通称「HOOP！」）などのイベントに参加する子どもと参加しない子どもに分かれていると感じる。参加しない方への意識向けができないか。</p>	<p>代表的な目標 51「将来の夢や目標をもっていると思っている子どもの割合の増加」については、具体的な職業やこんな人になりたいなどの段階を踏んでいく必要があり、キャリア教育やふるさと郷育での地域の人との関りが影響することもある。学校が取組だけでは不十分であり、市独自の家庭教育支援の取組である浜田親子共育応援プログラム（通称「HOOP！」）なども引き続き進めていく必要がある。</p> <p>浜田親子共育応援プログラム（通称「HOOP！」）はまちづくりセンターで行っているが、SNS など新たな媒体を活用して、まだ参加していない方への情報発信について研究を行っていく。</p>

3	<p><b>【主要施策3】食育と健全な体づくりの推進</b></p> <p>代表的な目標 55「学校給食の地域食材利用率の増加」は、評価方法が食品数ベースから金額ベースとなったことで、産業経済部門での見方である地域経済の活性化においては評価ができるが、食材数として増えているのかは見えない。学校給食への地元食材増加率を増やすことで何を達成させたいのかという教育委員会の最終目標と KPI がずれており、この数値目標の設定の仕方は見直した方が良いと思う。</p>	<p>金額、食材数の達成イコール目標達成ではなく、学校で給食の中に何が入っているかを話すことによって、給食を通して地産地消を子どものころから理解してもらうことが最終目標である。</p> <p>評価基準においては達成できたとなっているが、本質的なことが達成できたかどうか「主な取組と成果」の中でその部分を詳しく記載できるか、教育委員会との検討とする。</p>
4	<p><b>【施策大綱4】生涯スポーツの振興</b></p> <p><b>【主要施策1】スポーツ・レクリエーション活動の推進</b></p> <p>代表的な目標 64「総合スポーツ大会参加者の増加」のような目標は、過去の実績が見えないので、目標に向かっていけるのかが資料から読み取れない。過去3年の状況を表示するなど納得感が得られるような表示も必要と感じる。</p> <p>代表的な目標 64「総合スポーツ大会参加者の増加」を累計目標としているが、累計では差分を追いかけていかなければならないため、数値管理していく意味では、維持の方にシフトした方が良いと感じた。毎年2,400人を達成していくというのであれば、維持するという平行なグラフで表すこともできる。それぞれの目標の視点に基づき、グラフの表現の仕方は考慮された方がよい。</p>	<p>代表的な目標 64「総合スポーツ大会参加者の増加」については、策定時現状値を基に目標を設定しており、加速度的に増えていくものではなく、毎年2,400人を達成する累計の目標となっている。過去の数値については、コロナという特殊要因があり、前年の数値は参考となりにくいと考えるが、今後の検討としたい。</p> <p>累計の目標値については、4年間の計画を立てるにあたりトータルの目標値を設定し、それを追いかけるという経緯で策定したものであった。今後進捗管理をしていく上で、累計で見せない方が分かりやすい数値については、進捗管理のグラフなどの見直しを検討する。この度は初年度数値のみであるため、来年度の進捗管理における見直しとする。</p>
まちづくり大綱：V 生活基盤が整った快適に暮らせるまち【生活基盤部門】		
5	<p><b>【施策大綱2】公共交通の充実</b></p> <p><b>【主要施策2】効率的で持続可能な交通体系の構築</b></p> <p>代表的な目標 91「予約型乗合タクシーの利用者数の維持」がコロナの影響もあってかC評価となっている。非常に大事な事業であり、目標値も3,816人以上としているが、これから進めるにあたり、「以上」に何か指標があった方がよいのではないかと。</p>	<p>予約型乗合タクシーは維持目標としており、生活路線バスを補完するためのものであるため、多くの利用を望めないため目標は「以上」としている。維持という観点から策定時実績値の3,816人を現状維持できるよう努力していく。利用状況により、3年に1度見直しを行い、今後について検討していく。</p>